



52  
まいん

# きゅうはでばすいりよくはつでんしょ 旧端出場水力発電所



現在の旧端出場水力発電所

東洋一の落差  
わが国最大級の水力発電所

## きゅうはでばすいりよくはつでんしょ 旧端出場水力発電所

は、別子銅山に電気を供給するため、明治45年(1912)、わが国最大級の出力3,000kwで建設されました。事業を推進したのは住友家三代目総理事であった鈴木馬左也でした。

596mの有効落差を利用して発電が行われました。これは当時、東洋一の落差でした。

大正12年(1923)には、四阪島製錬所に電気を供給するため、発電機と、水車各1台を増設して、出力4,500kwに増強し、別子銅山の機械化による近代化にも大きく貢献しました。

昭和37年(1962)には水利用計画の変更により、出力は1,000kwに変更されました。

赤レンガ造りの建物は、愛媛県を代表する一つで、マイントピア別子端出場記念館本館のモデルとなりました。90年近く経ってもひび割れひとつ入っていないのは驚くべきことだと言われています。



外壁の一部が黒く塗られた跡

昭和45年、端出場水力発電所は、発電所としての任務を終えましたが、一部変電設備は現在も稼動しています。

また、建物の内部には創業開始当時の発電機(ドイツのジーメンス社製)1,500kw、水車(ドイツ・フォイト社製)が現存し、貴重な産業遺産となっています。

## なぜ?

建物の外壁をよく見ると一部黒く塗られています。それはなぜでしょうか?

答えは、裏にあります。



現在の水力発電所の内部の様子

